



しがのふるさと支え合いプロジェクト さとのかぜ通信

Vol.4号
2023.3月



17 パートナーシップで
目標を達成しよう
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



「知内農業組合の皆さん」

「知内農業組合」と 「コープしが」の協働活動

日本海との分水嶺である野坂山地から流れ出す知内川や百瀬川が、琵琶湖へ流れ込む水の郷である高島市マキノ町知内地区では「生活協同組合コープしが(以下、コープしが)」と「知内農業組合(以下、組合)」による「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の協働活動が行われています。かつては住民の9割が農家だった知内地区も、今では町外への通勤者が増え、農家が1割程度に激減。地区の環境保全の要となる農地利用や施設の維持が課題となっていました。そこで10年ほど前に、組合や知内子ども会育成会、住民の有志が中心となり「魚のゆりかご水田」の活動を始めたのが、この協働活動の原点です。最初は地区の住民だけで行っていた活動でしたが、平成31年には県のマッチングで、コープしがの職員や組合員(コープしがの利用者)が参加するようになり

なりました。しかし、翌年からは新型コロナウイルス感染症の拡大により、組合員の参加は見送りに。それでも職員が整備作業を手伝うなど、両者の縁を紡いできました。そして、世の中がアフターコロナを見据え始めた令和4年、今まで以上に一緒になにかをやりたいという声があがったことから、協定を締結。締結初年度は、今までのゆりかご水田整備作業や生き物観察会に加え、5月に田植え体験、9月に稲刈り体験が実施されました。

令和4年度からは、コープしがの職員だけではなく、組合員やその子どもも参加も復活。そこに、知内地区の子どもたちも加わることで、子ども同士の交流が生まれています。そんな様子を見て「今の時代は、子どもたちは農業に触れる機会が少ない。それは田舎に住んでいても変わらない。だから、住んでいる場所に関係なく、子どもたちにもっと農業のことや田舎の良さを知ってほしい。」と組合の方々は話します。コープしがからの参加があることで、ゆりかご水田の整備作業を手伝ってもらえて助かるだけでなく、多くの子どもたちに農業や田舎の良さを知ってもらえる機会が増えたことが嬉しい様子でした。



「コープしが」
西地区運営事務局
石本 与志夫 氏



一方、コープしがの石本さんは「実はコープしがでは、知内農業組合だけではなく、他の地域でも生産者と組合員をつなぐ取り組みをしています。しかし、他の地域とは少し感覚が違うのですよね。愛着があると言うのでしょうか。」と話します。続けて、「商品としてできるお米のことだけではなく、知内という地域も知ってほしいし、関わる人のことも知ってほしいと思います。だから、今後はもっと人同士の交流が生まれるような取り組みにしていきたいですね。」と笑顔で語られました。

最後に組合の方々が「私たちは歳だから、いつまでできるかはわかりません。けど、体が動く限り、地域の環境保全のために農業を続けていきたいですし、こういった体験もやっていきたいと思います。そういう意識になったのは、コープしがとの協働活動を含めた、観察会や体験があったからです。」と話してくれました。どちらかが一方的に助けてもらうのではなく、協働することでお互いにとって価値のある活動ができる。それがこのプロジェクトの良さと言えます。



「上の平区」と「土山ハイウェイサービス株式会社」の協働活動

甲賀市土山町の上の平(かみのひら)区は、三重県境に位置する山村。上の平区では地域に代々受け継がれてきた農地を守る取り組みが行われてきました。集落見守り隊という有志のメンバー16人のソバ栽培をきっかけに、令和2年度からは住民も巻き込んだ取り組みが行われています。そして、令和4年度には県のマッチングによって土山ハイウェイサービス株式会社との協働活動がスタートしました。不耕地地となっていた田んぼをフィールドに、初夏にソバの種まき作業を実施し、ソバの実の収穫・製粉・ソバ打ちと一連の作業に取り組みました。参加者のみなさんも泥だらけになりながらも楽しそうに作業をされました。土山ハイウェイサービスの山本さんに感想を聞いてみると、「山登りが趣味の方や体力に自信のあるメンバーで参加しましたが、思った以上に大変でした。」と笑いながらお話ししてくれました。地区のみならず、一層サポートにも力が入ります。上の平区のみならず、不慣れながらも興味を持って作業を頑張っ

てくれる社員さんたちとの交流に喜びを感じている様子でした。11月には待ちに待ったソバの試食会が開催されました。一生懸命植えたソバがどんな味になるのか。その日は手打ちソバに合わせ、地区の女性グループの皆さんがソバ粉をつかったクッキーなどのお菓子も作られ、美味しく楽しんで1日になったとのこと。また、土山ハイウェイサービスが主体となった取り組みとして、土山サービスエリアで大晦日に年越しソバが振る舞われました。100食限定の上の平ソバは瞬く間になくなりました。「地元に貢献することがミッションです。将来的には商品化し、特産品にできればと考えています。サービスエリアの人気商品にしたいです!」と山本さんは話していました。この協働活動をきっかけに、今までの平のことをご存知の方にも知ってもらえる機会が増え、作業のお手伝いだけではなく、情報発信拠点としても協力してくれる土山ハイウェイサービスさんに、地区のみならずは大変感謝されて「人が来てくれると地域が明るくなる。」と喜んでおられます。来年度は、新たに作付けしているリンドウが収穫できるとのこと。ソバの収穫は難しくなりましたが、リンドウは簡単に収穫できるようで、より多くの方に参加してもらいやすくなりそうです。さらに上の平地区が盛り上がることに期待が膨らみます。



「上の平区」
区長 橋本 榮次 氏

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」は、滋賀県の農山村の活性化や新たな価値の創造を目的に、集落等と企業や大学等が協働活動を行うプロジェクトです。今このプロジェクトをきっかけに農山村と都市の間に新たな風が吹き始めています。通信ではこれらの新しい風をお届けします。

HPは
こちら



Facebook
はこちら



「明日の走井を考える会」と「立命館大学経済学部」の協働活動



栗東ICから車で約10分。聖武天応の勅願により開基された名刹、金勝山金勝寺の門前町として栄えた走井集落。奥の谷間に美しい棚田が広がっています。その棚田を守ろうと「明日の走井を考える会」が結成され、活動を続けてきました。令和4年11月には、立命館大学経済学部と「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の協定を締結し、協働活動を行っています。同学部の佐野聖香教授は、大学が位置する滋賀の農山村地域に対して、何か貢献できるゼミ運営をしたいと考えてこられました。「効率的な農業も大事だけれど、果たしてそれだけでいいのか。」「学生に、地域だけでは継続が難しいお祭りや伝統行事の担い手になつてほしい。」との思いから、走井集落との協働が始まりました。学生たちに効率性だけでは解決できない棚田地域が抱える課題に、

積極的に関わってほしいという思いが込められていました。

農業経済や地域資源、持続的な発展、棚田保全など、様々な角度から調査を行い、いろいろな集落を見てきた中で、「関わるなら単発でなく、継続していきたくかったです。走井には多様な人材がおり、こういうことをしてみたい」という思いが強かったのかも。大学からの距離の近さも魅力でしたが、決め手は受け入れに前向きな地区の雰囲気でした。」と語る佐野教授。

協働の内容は都市農村交流。田植えから稲刈りに至るイベントの運営スタッフを学生が担っています。4回生の東島さんは「温かく迎え入れてもらえて嬉しかったです。農作業がきついことがよくわかりました。」と話されます。同じく4回生の井尻さんからは「実家の祖父母も農業をしていて、その苦労がわかったし、感謝の気持ちが大きくなりました。」との感想が聞かれました。

ゼミではイベント運営や農作業だけでなく、一般参加者にアンケート調査を実施して満足度を調査するとともに、検討を重ねて、次に活かせる資料化にも取り組ん



でいます。地区の小林さんは「若い人が来てくれてとても嬉しい。力になるし、よく動いてくれて助かっていきます。」と感謝の気持ちを寄せられました。毎年、活動を下級生に引き継ぐという大学ならではの事情もある中、学生たちが企画段階から携わることができないか、という熱い想いを持つ佐野教授。「県庁に相談して走井という良い地域と出会えました。今後は立命館大学と走井集落の実践を広く発信して、同じような取り組みが各地に広がってくれることを願っています。」学生たちもブルーベリー観光農園や夏休みメニュー、婚活などの企画を考えているようです。大学と地域の連携ならではの活動に発展することが期待される取り組みです。



「明日の走井を考える会」事務局 小林 義康 氏



「立命館大学経済学部」教授 佐野 聖香 氏

令和4年度 協定締結式

令和4年11月10日、滋賀県庁で知事立会いのもとに協定締結式が開催され、新たに4つの協定が締結されました。締結式には地域団体や企業、大学等から24名が出席し、協定書への署名を行いました。また、それぞれの団体から協働活動で作られた6次産業化商品や農作物等が披露され、賑やかな締結式になりました。締結式終了後は、名刺交換したりと交流がすすみました。



令和4年度 協定締結団体

- ★ 立命館大学経済学部 ⇔ 明日の走井を考える会(栗東市走井)
- ★ 土山ハイウェイサービス株式会社 ⇔ 上の平区(甲賀市上の平)
- ★ 社会福祉法人杉の子会 ⇔ 多賀にんじんクラブ(多賀町)
- ★ 生活協同組合コープしが ⇔ 知内農業組合(高島市知内)



【事業実施主体】 滋賀県農政水産部農村振興課
〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

【運営事務局】 株式会社パソナ農援隊
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-10-1 梅田DTタワーB1
TEL: 06-7636-6124 (9:00~17:30)